錦繍と雪化粧の鳥甲山

報告:A 原

日時:2020 年 10 月 25 日
メンバー:T 野、I 﨑、S 石京、K 野、N 谷、A 原
報告:

「コツコツ」「パリパリ」。
頭上から突然なにかが降ってきてザックや登山道わきの笹の葉をたたく。
「なに？」
見上げれば、真っ青な空をバックにまるで白い花をつけたような枝ぶりのダケカンバだ。枝についた氷の塊が、暖かい陽ざしを受け風に吹かれ落ちてきたのだ。きれい・・・。

今まさに紅葉の盛りの鳥甲山を登っている。昨日の冷たい雨は標高の高い場所では雪となり、笹の葉や地表を白く染め、樹々は氷の華をつけた。思いがけない美しい景色に歓声が上がった。

鳥甲山は岩場のクサリ場や両端が切れ落ちたヤセ尾根歩きが続く。山頂までスリリングな急傾斜のアップダウンが続くが、一息入れるように針葉樹や背の高い笹の森を歩く。冒頭のシーンはそんな森の中での一コマ。
連続する急登で標高をぐんと上げると、色鮮やかな下界が足元に広がる。モコモコの暖色系の毛糸玉を散りばめたなかにマッチ箱のような家屋が点在していた。
目の高さには苗場山の広大な台地が見えた。志賀方面のスキー場のゲレンデは妖怪・一反もめんのように白が際立って見えた。

ムジナ平から登山を開始して、山頂には約 3 時間半で着いた。ドキドキするようなアトラクションは喉元過ぎればなんとやらでなかなか楽しいルートだった。

さて、山頂からは屋敷登山口に下山する。尾根上の登山道が遠望できる。笹原の緑と錦繍の山やま、鳥甲山の荒々しい崩壊地など素晴らしい展望の尾根歩きだが、樹林帯に入ると「日本三大ズルズル坂道」があったとしたら絶対エントリーできそうなズルズル道が延々と延々と続く。泣きそう。
腐葉土に落ち葉が積もり、さらに急傾斜。三拍子そろって滑らないわけがない！山頂までの登りのスリリングとはまた別種類の緊張感でいやあな汗をかく。靴もズボンもおしりも泥だらけ。

標高が落ち、ブナの黄葉が鮮やかさを際立てると堰堤が出てきてゴールも近い。
最後の最後まで急斜面は続いて、山頂から 3 時間で屋敷登山口に到着。グータッチで終了。お疲れさま!

土曜は上州の子持山。日曜に鳥甲山。どちらのお山も天気に恵まれ充実の山登りができました。
お宿は秋山郷の民宿、丸山荘。美味しいお料理をいただきました。山菜のころにも訪れたいお宿でした。温泉は楽養館。濃厚な鉄分の赤褐色の温泉でした。
みなさま、とても楽しい週末をありがとうございました。またご一緒してください。

おしまい。